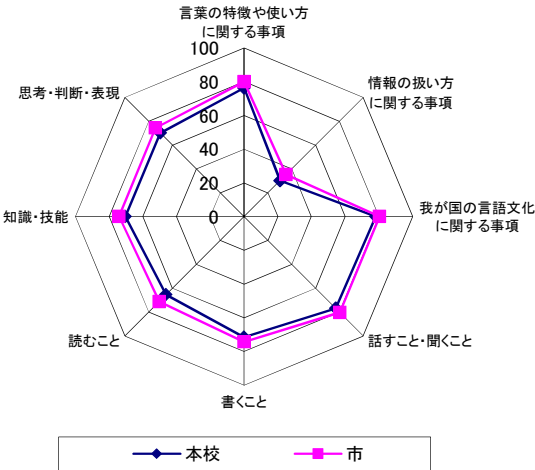


宇都宮市立宝木中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.3	80.0	76.5
	情報の扱い方に関する事項	30.3	35.2	29.3
	我が国の言語文化に関する事項	78.2	80.4	63.1
	話すこと・聞くこと	76.9	80.4	77.7
	書くこと	71.5	74.3	62.9
	読むこと	65.4	71.2	65.8
観点別	知識・技能	70.4	74.1	68.4
	思考・判断・表現	70.2	74.3	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

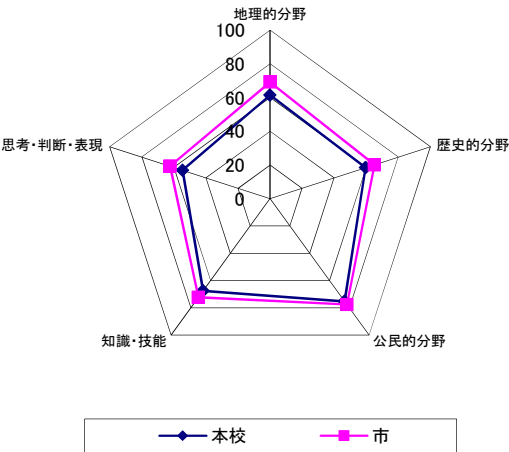
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	・市の平均を3.7ポイント下回っている。 ●用言の活用を問う問題では、市平均より7.8ポイント下回った。	○折にふれて「用言の活用」の基礎基本を扱い、何度も繰り返すことで苦手意識をなくしていく。 ・授業の開始時に行う漢字の小テストは、漢字の反復練習の一助となっている。今後も継続して行っていく。
情報の扱い方に関する事項	・市の平均を4.9ポイント下回っている。 ●自分の考えを分かりやすく伝えるための作文は、市平均より5.8ポイント下回り、無回答の生徒も31.9%いた。	・複数の情報を関連付けたり、整理したりする活動を増やす。 ・話し合い活動等を増やし、自分の考えを形成、表現することに慣れさせていく。 ・自分の考えを分かりやすく伝えるための作文指導を、継続して行っていく。
我が国の言語文化に関する事項	・市の平均を2.2ポイント下回っている。 ○古語の意味を問う問題は、市平均より7.2ポイント上回った。 ●歴史的仮名遣いを問う問題は、市平均より11.7ポイント下回った。	・古文や漢文は繰り返し音読し、リズムや仮名遣いに慣れさせていく。 ・過去の高校入試の問題を取り入れたり例題に数多く触れたりすることで苦手意識をなくしていく。
話すこと・聞くこと	・市の平均を3.5ポイント下回っている。 ○「話の展開を予測しながら聞く」項目では、市平均を2.6ポイント上回った。 ●「自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話す」項目では、市平均を11.5ポイント下回った。	・「話すこと」では、スピーチの授業や物事を説明する内容を扱い、聞き手に話し手の伝えたい内容を理解してもらえるように、内容構成を指導する。 ・「聞く」では、聞き取りテストを定期的に計8回実施しており、話を聞くポイントを確認する機会を定期的に設けている成果が現れてきているので、継続していく。
書くこと	・市の平均を2.8ポイント下回っている。 ○「指定された長さで文章を書く」項目では、市平均を0.6ポイント上回った。 ●「読み手を説得できるように文章の構成を工夫する」「情報の関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する」の各項目では、それぞれ、6.5ポイント、5.8ポイント市平均を下回った。	・作品に対して、自分の考えをまとめたり、感想を書いたりする機会を増やす。 ・自分の考えを相手に伝えるために、効果的な文章の書き方や構成の仕方のコツについて細かく指導し、書くことへの抵抗を減らしていく。
読むこと	・市の平均を5.8ポイント下回っている。 ●すべての項目が市平均を下回り、特に「物語の展開の仕方を捉える」「文章を批判的に読みながら、登場人物の行動の意味を考える」「文章の構成を評価する」問題はいずれも市平均を10ポイント以上下回った。	・三年間を通じて読書指導を充実させながら、作品を楽しんで読み味わえるような機会を多く設ける。 ・説明的文章の読み取りを苦手とする生徒が多い傾向がある。要約をするときのキーワードの選び方や、内容を省略しまとめるときのポイントを指導する。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	61.4	69.2	61.5
	歴史的分野	59.6	65.1	59.1
	公民的分野	75.4	77.6	71.6
観点別	知識・技能	67.7	72.2	66.8
	思考・判断・表現	54.5	62.3	53.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

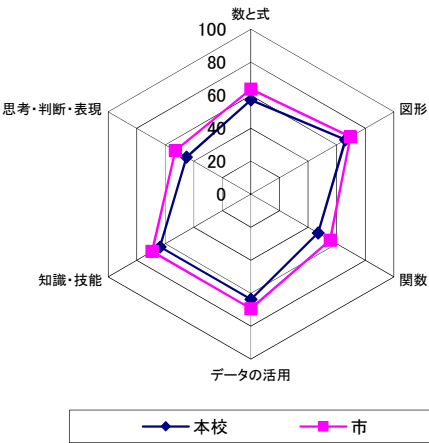
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	市の平均を7.8ポイント下回っている。 ○「世界の姿」の単位では、市の平均を2.3ポイント下回ったが、海洋や大陸についておおむね理解できている。 ●「日本の地域的特色」「日本の諸地域」の単位において、どちらも市の平均より10ポイント下回った。	・地図やグラフなど、資料の読み取りのポイントを丁寧に指導し、毎回授業でどのようなことが読み取れるか確認する。 ・ICTを活用し、調べ学習やレポートにまとめる活動を通して、資料を活用する能力を育てていく。 ・日本の諸地域に関する知識が不十分なので、郷土の食べ物や産業と結び付け、関心を持たせることで基礎基本的知識の定着を図る。
歴史的分野	市の平均を5.5ポイント下回っている。 ○「古代までの日本」の単位では、市の平均正答率とほぼ同様である。 ●「近世の日本」の単位では、市の平均を8.7ポイント下回った。また、年表問題に苦手意識が見られる。 ●資料をもとに記号を選択する問題の正答率が低く、資料を活用し、思考してから記号を選択する問題が不得意であるといえる。	・年表を活用し、歴史の大まかな流れを確認できるようにする。海外の動向と関連させ、世界的な動きを理解できるようにする。 ・記号を選択する問題において、関連する出来事と紐づけて考える習慣を身に付けさせる。 ・資料のどこを読み取るべきかポイントを明確に示し、資料を活用して思考する問題への対応力を高める。
公民的分野	市の平均を2.2ポイント下回っている。 ○「人間の尊重と日本国憲法」の単位では、市の平均正答率とほぼ同様の正答率である。 ○あてはまる語句の組み合わせを選ぶ問題の正答率が高く、基本的語句を抑えることができています。 ●資料をもとに記述する問題の正答率が低く、資料読解問題が不得意であるといえる。	・公民的分野は、身近な事例や政治に関するニュースなどに興味を持つことが大切なので、日頃から新聞記事の活用や、身近にある教材を提供し、興味を高めていく。 ・資料を活用し、記述する力を高めるためには、読み取れることを簡潔に短文でまとめる活動が有効であるので、意識して行わせる。 ・前回の授業の復習問題を取り入れることで、基礎的知識の定着を図る。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	57.1	63.7	61.5
	図形	66.1	69.6	61.1
	関数	47.0	55.4	43.5
	データの活用	63.7	69.3	64.2
観点別	知識・技能	63.7	69.2	65.3
	思考・判断・表現	45.1	52.9	42.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

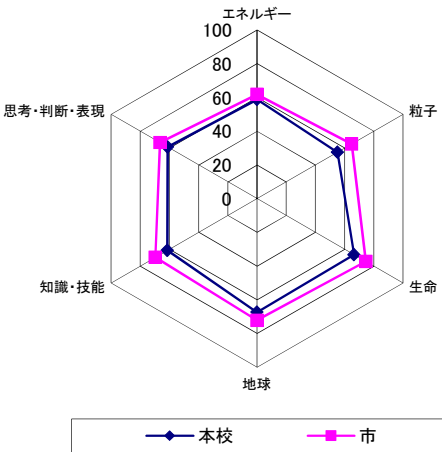
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	市平均を6.6ポイント下回っている。 ○ 平方根の考えを使って解く二次方程式の計算の平均正答率は、市平均よりやや高い。また、平方根の大小に関する問題の平均正答率は市平均とほぼ同じである。 ● 連立方程式を解く問題、連立方程式を立式する文章問題における平均正答率は市平均より低く、それぞれ9.7ポイント、15.2ポイント下回った。	・連立方程式において、加減法、代入法の基本的な計算問題を反復練習させることにより、技能の確実な定着を図る。 ・文章問題において方程式を立式させる際に、図表を用いた情報の整理やことばの式による立式など段階を踏んだ手順で解決させる。
図形	市平均を3.5ポイント下回っている。 ○ 三角形の合同条件について理解しているかを問う問題では、平均正答率が市平均より高かった。 ● 多角形の外角の和が360°であることを問う問題において、平均正答率が市平均より17.3ポイント下回った。	・基本的な内容の定着を図るために問題演習を多く取り入れる。多角形の内角の和、外角の和、正多角形の1つの内角や外角の大きさなど、関連する内容については比較しながら整理して考えさせる。
関数	市平均を8.4ポイント下回っている。 ● 比例、1次関数、 x の2乗に比例する関数すべてにおいて平均正答率が市平均より低く、その差は、-3.2～-12.6ポイントであった。	・具体的な事象と関連付けた形での問題演習を意識的に行い、表や式、グラフの扱いについての基本的な技能を身に付けさせる。
データの活用	市平均を5.6ポイント下回っている。 ○ ヒストグラムを読み取り人数を求める問題の平均正答率は市平均よりやや高く、箱ひげ図からデータの分布を読み取る問題においては市平均と同じであった。 ● 箱ひげ図の四分位範囲を求める問題の平均正答率は市平均を11.0ポイント下回った。	・令和2年度から新たに中学校の学習内容に加わった「箱ひげ図」については、教材の工夫により、基礎・基本の定着を図る。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	58.8	61.8	60.6
	粒子	55.0	64.8	54.0
	生命	66.5	74.5	66.6
	地球	67.4	72.1	63.0
観点別	知識・技能	61.4	69.6	63.4
	思考・判断・表現	61.3	66.5	57.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

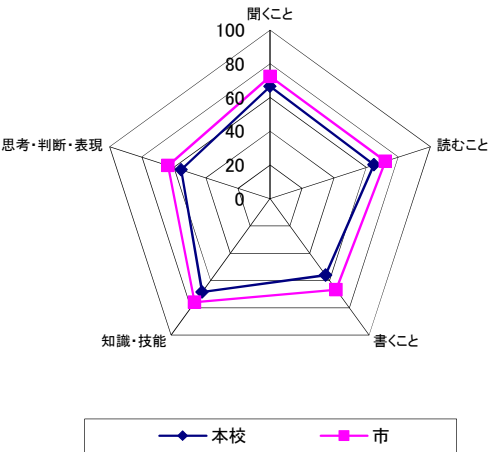
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	・市の平均を3.0ポイント下回っている。 ○位置エネルギーと運動エネルギーが移り変わる運動でおもりの速さが最大になる点を指摘する問題では、市平均より2.1ポイント、全国よりも1.0ポイント上回った。 ●電流がつくる磁界の向きの問題では、市平均より12.5ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・市や全国の平均から大きく離れているわけではないが、エネルギー分野の学習は、学年が進むにつれて理解することが難しい面がある。そこで、実験・観察の目的を明確にし、実験結果がわかるよう実験方法を工夫する。また、まとめ後も、練習問題で定着を図らせる。 ・教科書の写真や図、グラフについて、実際に演示したり、見方・考え方をきちんと説明したりして理解させる。
粒子	・市の平均を9.8ポイント下回っている。 ●酸化銀を加熱すると酸素ができることを理解しているかを問う問題では、市平均より12.7ポイント下回った。 ●塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えていった時の水素イオンの数の問題では、市平均より13.4ポイント下回った。	・市や全国の平均の結果からも粒子（化学分野）本校理科の課題となる分野である。ほとんどの内容が実験を通して理解するものなので確実に生徒実験を実施する。その際、結果によっては教師による演示実験も加える。また、教科書に写真で紹介されている実験についてもできる限り演示する。 ・分子・原子、化学反応式、イオンの学習においては、確実な知識の習得とともに、モデル化、問題演習の実施を十分行う。特にイオンのグラフ化は繰り返し指導し定着を図る。
生命	・市の平均を8.0ポイント下回っている。 ●コケ植物とシダ植物を分類する特徴の問題では、市平均より16.0ポイント下回った。 ●血液の循環の問題では、市平均より10.0ポイント下回った。	・植物の分類は、基本となる観察もしっかり授業で行い、知識の定着を図る。 ・人体の学習においては、視聴覚資料を使用し、理解を深める。また、各自のまとめの時間を確保し、理解を図るとともに、学習内容を定着させる時間も確保する。
地球	・市の平均を4.7ポイント下回っている。 ●寒冷前線の前線面と雲の様子の問題では、市平均より2.6ポイント下回った。 ●地震が発生した時刻を推測する問題では、市平均より14.9ポイント下回った。	・天気や地震等地球分野の内容は、本来身近な現象であることから、日常を意識して学習を進めることが大切である。特に天気については、毎日の授業において触れていくようにする。また計算やグラフ化もあるため、数学科とも連携していくようにする。 ・地層の柱状図や地震の波形等、生徒がつまづく内容は、生徒間の話し合いや発表場面を設定する。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	66.6	72.5	70.5
	読むこと	64.8	71.9	66.9
	書くこと	56.0	66.8	59.7
観点別	知識・技能	68.5	76.0	73.9
	思考・判断・表現	55.5	63.6	55.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	・市の平均を5.9ポイント下回っている。 ○「英文を聞き、その内容に合う絵をえらぶことができる」では、市や全国の正答率を超えるものもあった。 ●「対話文の内容を聞き、その意味を理解して資料を基に英語で答えている」では、市の正答率を11.4ポイント下回った。	・「聞くこと」への意欲は、他の領域に比べて高い生徒が多い。しかし、対話の内容は聞き取れても、それを受けて英語でやり取りをすることに苦手意識が強いので、今後も授業で簡単な英語でのやり取りを数多く取り入れることを継続させていく。
読むこと	・市の平均を7.1ポイント下回っている。 ○「英文を読み、会話と資料の情報・条件をもとに、適切な料金を選んでいる。」「対話を読み、対話の流れと案内から、必要な情報を把握して適切な語を選んでいる。」では、全国の正答率を上回った。 ●14問すべてにおいて平均正答率が市平均より低く、その差は-3.3 ～ -12.1ポイントであった。	・語形・語法や語彙の知識・理解が不十分であることから、文の内容を読み取ることが難しいということがわかった。今後は、単語の意味や文法にこだわるのではなく、文脈から概要を理解できるよう、副教材を使って英文の読解力が高まるような取組をしていく。
書くこと	・市の平均を10.8ポイント下回っている。 ○場面に応じて書く英作文の問題では、2問とも全国正答率を上回った。 ●9問すべてにおいて平均正答率が市平均より低く、その差は、-3.6 ～ -21.1ポイントであった。特に、「一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとめた内容で説明する文を正確に書いている」では-21.1ポイントであった。	・テーマに沿って3文以上の英作文をする問題に非常に高い苦手意識があることがわかった。県立高校の学力検査には、5文以上のまとまりのある英作文を求められるので、難しい単語や文法を使わなくてもまとまりのある英文は書けるという実感を味わわせたい。

宇都宮市立宝木中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
◎「わかる授業」のより一層の推進	(1)『分かる授業』の推進 ①「本時の目標(めあて、ねらい)」をつかむことのできる明確な指示	「学校の授業がどの程度わかりますか」について ○1年生 83.7%(市 85.7%、昨年度 75.2%) ○2年生 76.3%(市 81.3%、昨年度 74.2%) ●3年生 72.0%(市 82.4%、昨年度 84.4%)
	②話し合い活動の積極的な導入	「グループなどで話し合いに自分から進んで参加している」について ○1年生 79.3%(市 80.3%、昨年度 76.9%) ●2年生 78.1%(市 80.3%、昨年度 78.3%) ●3年生 78.0%(市 83.0%、昨年度 84.4%)
	③「ふりかえり」活動の徹底	「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」について ○1年生 82.2%(市 78.6%、昨年度 71.1%) ●2年生 66.7%(市 75.6%、昨年度 69.2%) ●3年生 66.1%(市 74.9%、昨年度 85.2%)
◎家庭学習ノートの活用など、家庭学習の一層の充実	(2)家庭学習の習慣化	「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」について ○1年生 71.9%(市 49.5%、昨年度 61.2%) ●2年生 44.7%(市 42.4%、昨年度 42.5%) ●3年生 49.2%(市 45.7%、昨年度 77.0%)
		「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」について ○1年生 65.9%(市 60.7%、昨年度 57.9%) ○2年生 46.5%(市 55.2%、昨年度 51.7%) ●3年生 63.6%(市 67.3%、昨年度 76.3%)
		「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」について ○1年生 81.5%(市 74.9%、昨年度 67.8%) ○2年生 68.4%(市 72.5%、昨年度 57.5%) ●3年生 66.1%(市 76.3%、昨年度 87.4%)

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- (1)『わかる授業』の一層の推進に向けて
- ①「本時の目標(めあて、ねらい)」の提示の徹底及び、提示内容の工夫を行う。
 - ・毎時間の学習課題に即した目標(めあて、ねらい)の提示の仕方への工夫も行う。
 - ②効果的なノートの活用
 - ・教科担任による板書の工夫や学習の定着を図った効果的なノートの活用法の指導をより一層充実させる。
 - ③生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫
 - ・教科担任による教材研究の充実と、「一人一授業」の公開方法をさらに工夫することで、教師間の学び合いを通じた授業力の向上を図る。
 - ④話し合い活動の積極的な導入
 - ・授業の中で、感染症対策を講じた上で、生徒同士の意見交換の場面を、より意識的に増やして、学習活動に積極的に臨めるようにする。
 - ・グループ活動や発表の場面などにおいて、教科担任のコーディネートにより話し合い活動をより一層充実させる。
 - ⑤「ふりかえり」活動の徹底
 - ・ワークシートやチェックテストなどを活用して、毎時間の学習課題に即した振り返りを確実に実施する。
- (2) 家庭学習のより一層の充実に向けて
- ①学習に対する家庭の関心を高める工夫
 - ・三者懇談、教育相談、学校だより、学習だよりなどを活用した学習に関する情報提供を充実させる。
 - ②自主学習ノートの点検、アドバイス、賞賛。
 - ・学級担任や学年教員による、家庭学習の内容の点検と、コメントの記入等による助言や認める指導を充実させる。
 - ③家庭学習の仕方を明示、説明
 - ・「家庭学習の手引き」を活用し、生徒には年度始めのオリエンテーションで、保護者には保護者会で家庭学習の仕方などに触れていく。
 - ・定期テストへ向けての学習や、テストの振り返りなど、定期的に教科担任から復習方法の指導を行う。